

---

## 中国経済レポート No.32

# 強大な貿易国・中国と緊張感ある互惠関係を築く インドネシア、タイ

---

### 【目次】

1. 輸出入両面で世界をリードする中国 ..... p.1
2. 全体では大幅な貿易黒字を計上するも新興経済地域とは貿易赤字を計上  
..... p.1
3. 中国との貿易関係～競合か依存か？ ..... p.2
4. 競合関係を維持しつつも、追従的あるいは依存的な要素も加味する  
インドネシア、タイ ..... p.3

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 野田 麻里子 ( [chosa-report@murc.jp](mailto:chosa-report@murc.jp) )

〒108-8248 東京都港区港南 2-16-4

TEL: 03-6711-1250

1. 輸出入両面で世界をリードする中国

中国は WTO（世界貿易機関）加盟前後から輸出の大幅な拡大を背景に「世界の工場」として世界市場を席捲。最近では先進国の景気低迷が長引く中で「世界の市場」としても台頭しつつある。実際、WTO の統計(2009 年)によれば、中国は世界輸出の 10.5%を占める最大の輸出国であり、同時に世界輸入の 9.1%を占める米国に次ぐ世界第 2 位の輸入国でもある（図表 1）。

図表 1. 世界の主要輸出国・輸入国(2010年) (10億ドル、%)

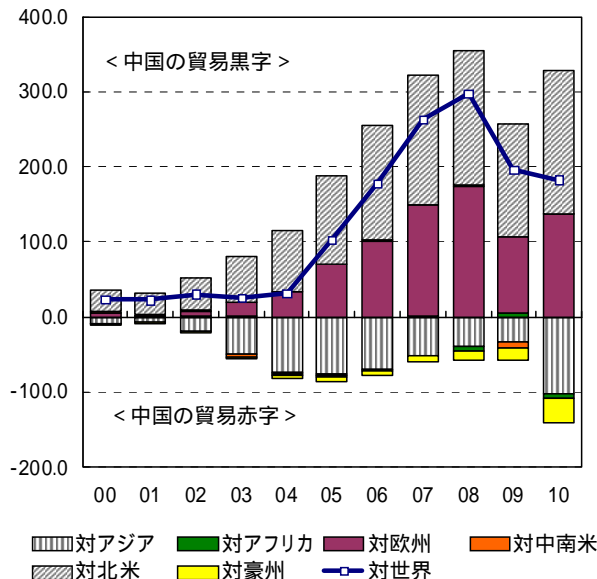
輸出		金額	シェア	輸入		金額	シェア
世界計		15,082	100.0	世界計		15,305	100.0
1	中国	1,578	10.5	米国	1,968	12.9	
2	米国	1,278	8.5	中国	1,395	9.1	
3	ドイツ	1,268	8.4	ドイツ	1,066	7.0	
4	日本	770	5.1	日本	693	4.5	
5	オランダ	572	3.8	フランス	606	4.0	
6	フランス	520	3.5	英国	557	3.6	
7	韓国	466	3.1	オランダ	517	3.4	
8	イタリア	447	3.0	イタリア	484	3.2	
9	ベルギー	411	2.7	香港	434	2.8	
10	英国	404	2.7	韓国	425	2.8	

(出所)WTO

2. 全体では大幅な貿易黒字を計上するも新興経済地域とは貿易赤字を計上

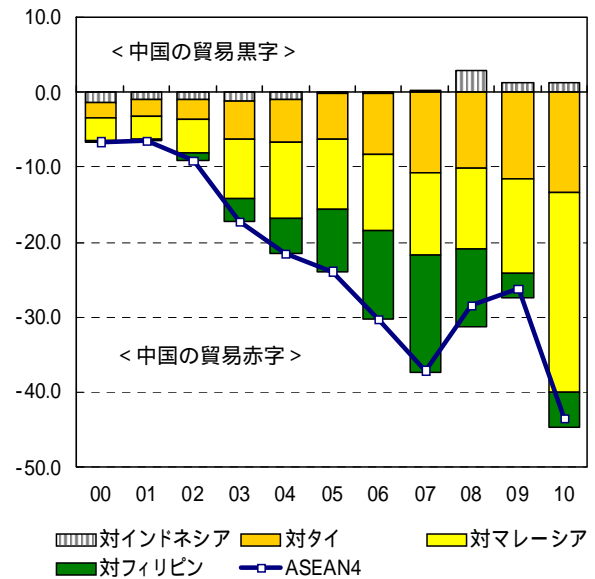
また、中国は年間 2000 億ドル近い貿易黒字を計上する貿易黒字国だが、地域別に見ると、欧州、北米など先進地域に対して黒字を計上する一方でアジア、中南米など新興経済地域に対しては赤字を計上している。ASEAN 主要国についてはインドネシアに対して小幅の黒字を計上する以外は赤字であり、赤字幅は拡大傾向にある。貿易収支だけを見れば、ASEAN をはじめとする新興経済地域にとって中国は黒字を稼がせてくれる貿易相手国ということになる（図表 2 , 3）。

(10億ドル) 図表 2. 中国の地域別貿易収支の推移



(出所)CEIC

(10億ドル) 図表 3. 中国の対ASEAN4貿易収支の推移

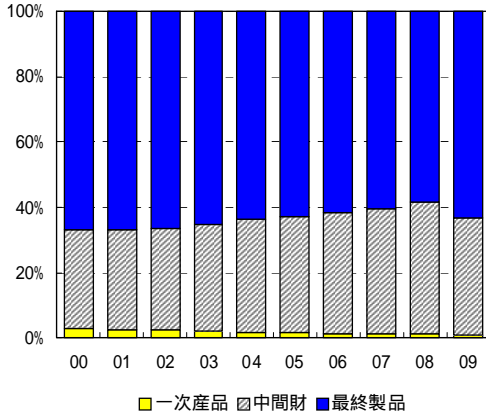


(出所)CEIC

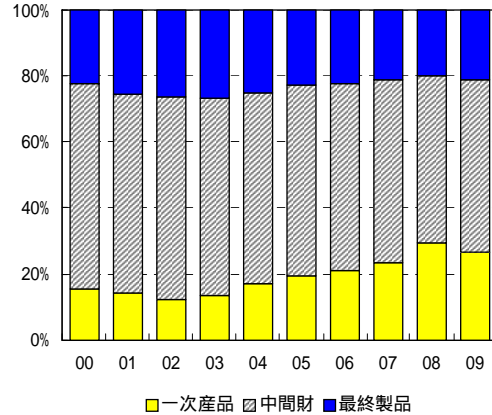
### 3. 中国との貿易関係～競合か依存か？

しかし、貿易構造に注目すると新興経済国もあまり楽観できないかもしれない。まず、中国の貿易構造をみてみよう。「世界の工場」の呼び名に相応しく 2009 年時点で輸出の 63%が最終製品に占められ、中間財（36%）を合わせると輸出の 99%は製品で占められている。一方、輸入は「世界の市場」とは言われているものの、最終製品の割合は 2009 年時点でも 21%にとどまっている。ただし、資源をはじめとする一次産品の割合は 27%に拡大している。

図表4-1. 中国の輸出構造



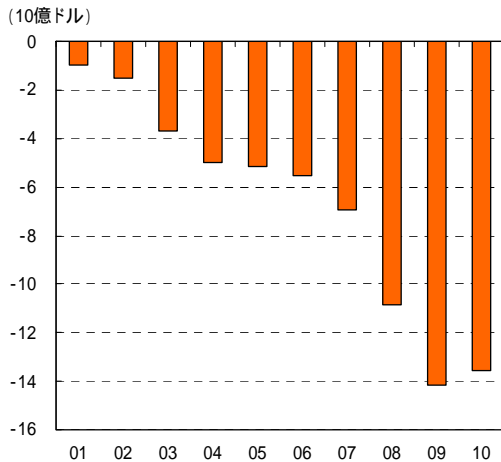
図表4-2. 中国の輸入構造



(出所)RIETI-TID2010

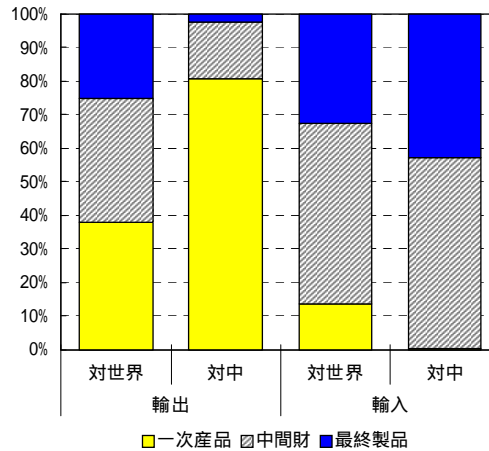
こうした中で今年の3月11日付けのウォール・ストリート・ジャーナル(アジア)紙は「中国との貿易拡大が世界規模で産業構造の変化を招いている<sup>1</sup>」としてブラジルの例を紹介している。中国の対ブラジル貿易収支は赤字幅が拡大傾向にあり、ブラジルにとって中国は貿易黒字を稼がせてくれる相手である。しかし、対中輸出の81%を一次産品が占める一方、中国からの輸入の43%が最終製品に占められている状況を前に、まるで工業国から一次産品輸出国に逆戻りしてしまったようだ。ブラジルでは対中貿易依存度の高まりに警戒感が高まっているという(図表5, 6)。

図表5. 中国の対ブラジル貿易収支の推移



(出所)CEIC

図表6. ブラジルの財別貿易構造 <2009年>



(出所)RIETI-TID2010

<sup>1</sup> “China trade rise prompts shifts around the globe,” Wall Street Journal (Asia), March 11, 2011.

#### 4. 競合関係を維持しつつも、追従的あるいは依存的な要素も加味するインドネシア、タイ

翻ってアジア諸国はどうだろうか。ACFTA(ASEAN・中国自由貿易協定)に基づき、ASEAN 原加盟国(ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ)と中国は2010年1月より一部の例外品を除き、関税を撤廃した。中国との貿易関係が一段と緊密化するこれらの国々においてブラジルのような変化が見られないかどうか、インドネシアとタイについて検証してみた。

##### (1) 高まる対中貿易(輸出+輸入)ウェイト

2001年当時、インドネシアとタイにとって中国は貿易(輸出+輸入)金額でそれぞれ4.2%と5.2%を占める貿易相手国でしかなかった。しかし、2009年時点ではそれぞれ12.1%と11.6%を占める三大貿易相手国のひとつにまで中国の地位は上がっている。中国が両国にとって貿易相手国として大きな存在となっていることがうかがわれる(図表7、8)。

図表7. インドネシアの主要貿易(輸出+輸入)相手国

	2001		2005		2009			
	百万ドル	シェア(%)	百万ドル	シェア(%)	百万ドル	シェア(%)		
輸出入計	95,794	100.0	輸出入計	162,351	100.0	輸出入計	210,002	100.0
1 日本	17,700	18.5	日本	24,955	15.4	日本	28,418	13.5
2 米国	10,971	11.5	シンガポール	17,307	10.7	シンガポール	25,813	12.3
3 シンガポール	8,511	8.9	米国	13,775	8.5	中国	25,502	12.1
4 韓国	5,982	6.2	中国	12,505	7.7	米国	17,983	8.6
5 中国	4,043	4.2	韓国	9,955	6.1	韓国	12,888	6.1
6 オーストラリア	3,659	3.8	タイ	5,693	3.5	マレーシア	12,500	6.0
7 マレーシア	2,784	2.9	マレーシア	5,580	3.4	インド	9,642	4.6
8 ドイツ	2,598	2.7	オーストラリア	4,795	3.0	タイ	7,847	3.7
9 タイ	2,050	2.1	インド	3,931	2.4	オーストラリア	6,700	3.2
10 英国	2,026	2.1	ドイツ	3,562	2.2	ドイツ	4,700	2.2

図表8. タイの主要貿易(輸出+輸入)相手国

	2001		2005		2009			
	百万ドル	シェア(%)	百万ドル	シェア(%)	百万ドル	シェア(%)		
輸出入計	126,879	100.0	輸出入計	228,336	100.0	輸出入計	286,813	100.0
1 日本	23,845	18.8	日本	41,005	18.0	日本	40,887	14.3
2 米国	20,444	16.1	米国	25,673	11.2	中国	33,237	11.6
3 シンガポール	8,141	6.4	中国	20,258	8.9	米国	25,133	8.8
4 中国	6,573	5.2	マレーシア	13,873	6.1	マレーシア	16,284	5.7
5 マレーシア	5,799	4.6	シンガポール	13,016	5.7	シンガポール	13,313	4.6
6 ドイツ	4,129	3.3	香港	7,627	3.3	オーストラリア	12,360	4.3
7 香港	4,123	3.2	インドネシア	7,084	3.1	香港	11,193	3.9
8 韓国	3,351	2.6	UAE	6,867	3.0	UAE	9,171	3.2
9 英国	3,312	2.6	オーストラリア	6,406	2.8	インドネシア	8,488	3.0
10 オーストラリア	2,738	2.2	韓国	6,132	2.7	韓国	8,271	2.9

(出所)CEIC

##### (2) 拡大する対中貿易赤字

インドネシアについては、中国側の統計でもインドネシア側の統計でも、近年、中国がインドネシアにたいして黒字(インドネシアは中国に対して赤字)を計上するようになっている。一方、タイについては、中国側の統計では、中国側の貿易赤字となっているが、タイ側の統計では対中貿易赤字が毎年拡大している。これは香港を中継した輸出を中国の輸出とカウントするかどうかなど統計上の問題によるものであるが、両国の間で貿易収支に関する認識は異なっている。

各国ベースの貿易統計に依拠すれば、インドネシア、タイともに対中貿易赤字は拡大傾向にある。

(3) 対中貿易構造～競合 vs. 中国追従

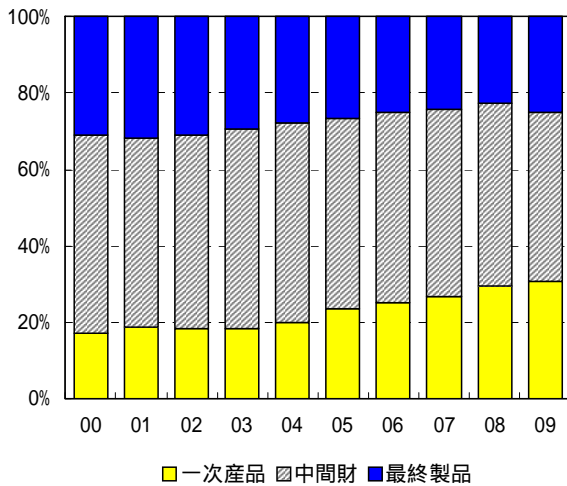
下掲図表9に見られるように、インドネシアの輸出構造は2009年時点では一次産品31%、中間財45%、最終製品25%と製品が輸出全体の約7割を占めている。これに対して対中輸出は一次産品の割合が44%と高くなっているものの、中間財(46%)や最終製品(9%)の輸出も一定の割合が維持されている。中国の需要に合わせて一次産品の割合が大きくなっているという意味で中国需要追従的な構造にややシフトしているが、製品輸出も一定割合あり、競合関係も維持されていると考えられる。

一方、輸入についてはそもそも全体でも中間財59%、最終製品28%と製品の割合が大きいが、対中国ではその傾向が一層強く現れている。競争力の高い中国製品がインドネシア市場に浸透している様子が見え、輸入構造はやや中国の供給パターン追従的になっているようだ。

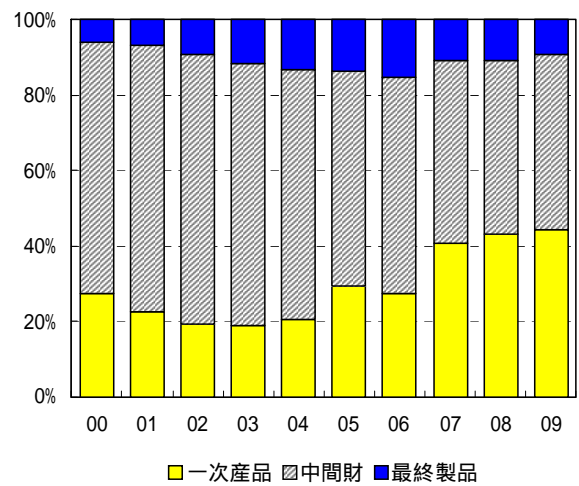
図表9.インドネシアの貿易構造

<輸出>

インドネシアの輸出構造

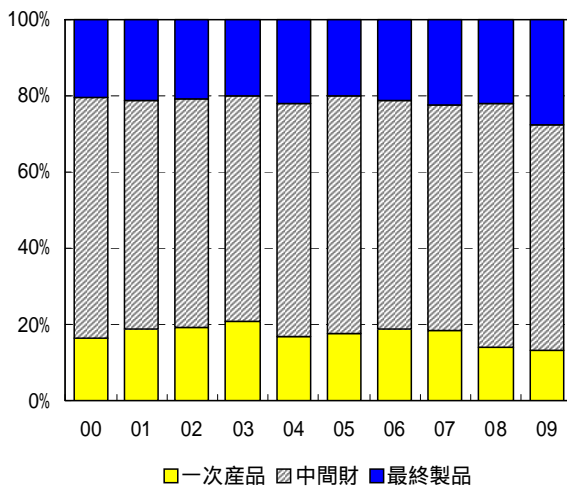


インドネシアの「対中」輸出構造

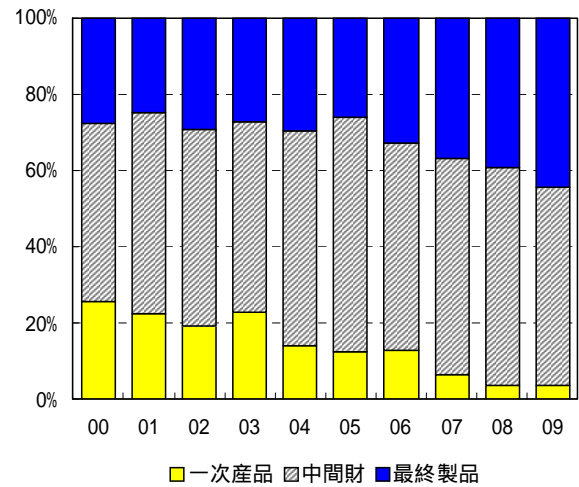


<輸入>

インドネシアの輸入構造



インドネシアの「対中」輸入構造



(出所) RIETI-TID2010

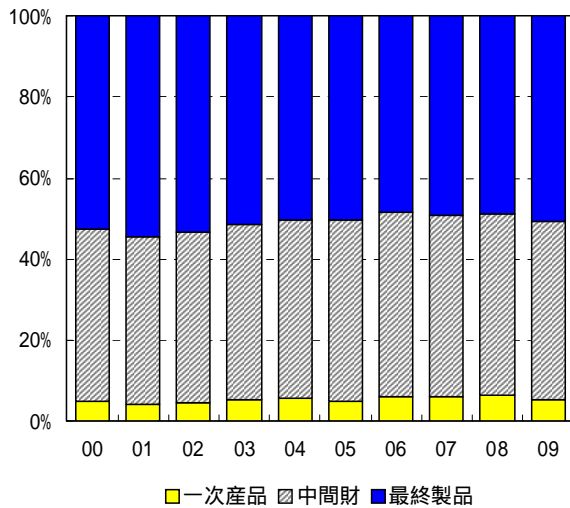
一方、タイの輸出構造を見ると（図表10）対中輸出に占める最終製品の割合が40%と輸出全体に占める最終製品の割合（51%）に比べて小さくなっているものの、中間財については逆に輸出全体の44%に対して対中輸出では51%と大きくなっており、「世界の工場」への中間財供給国としての機能をタイが果たしていることがうかがわれる。一方で最終製品の割合が大きくなる傾向が見られ、水平分業的な競合関係も強まりつつあるようだ。

他方、輸入については全体に比べて対中輸入における最終製品の割合が大きく、インドネシア同様、競争力の高い中国製品がタイ市場に浸透しつつある様子が見られる。輸入構造はやはりやや中国の供給力パターンに追従する傾向が見られると言えよう。

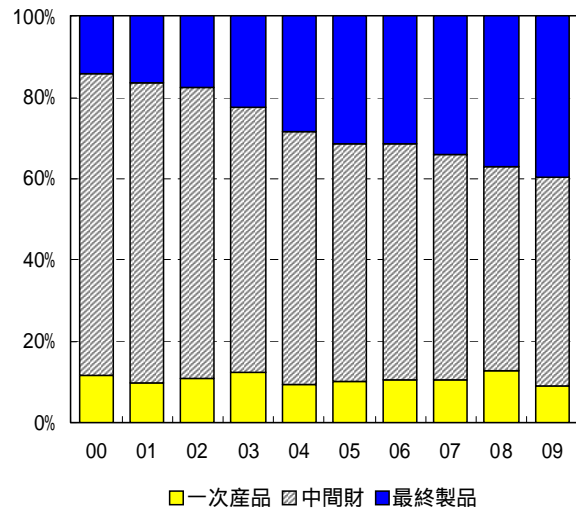
図表10. タイの貿易構造

<輸出>

タイの輸出構造

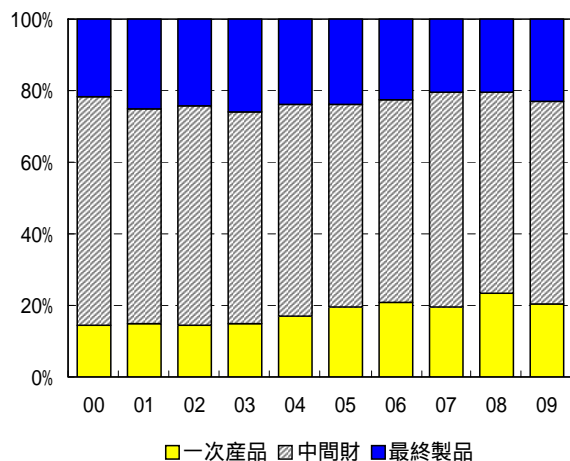


タイの「対中」輸出構造

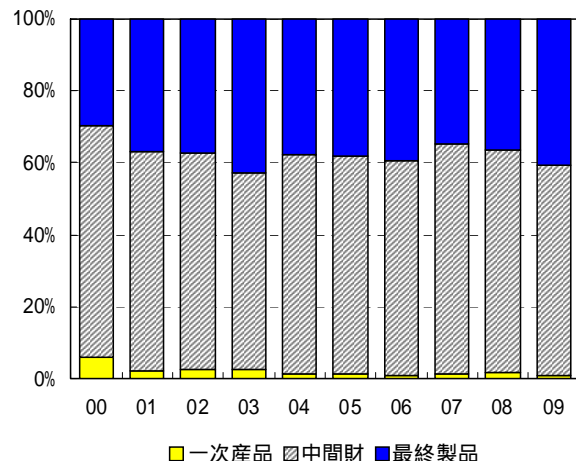


<輸入>

タイの輸入構造



タイの「対中」輸入構造



(出所)RIETI-TID2010

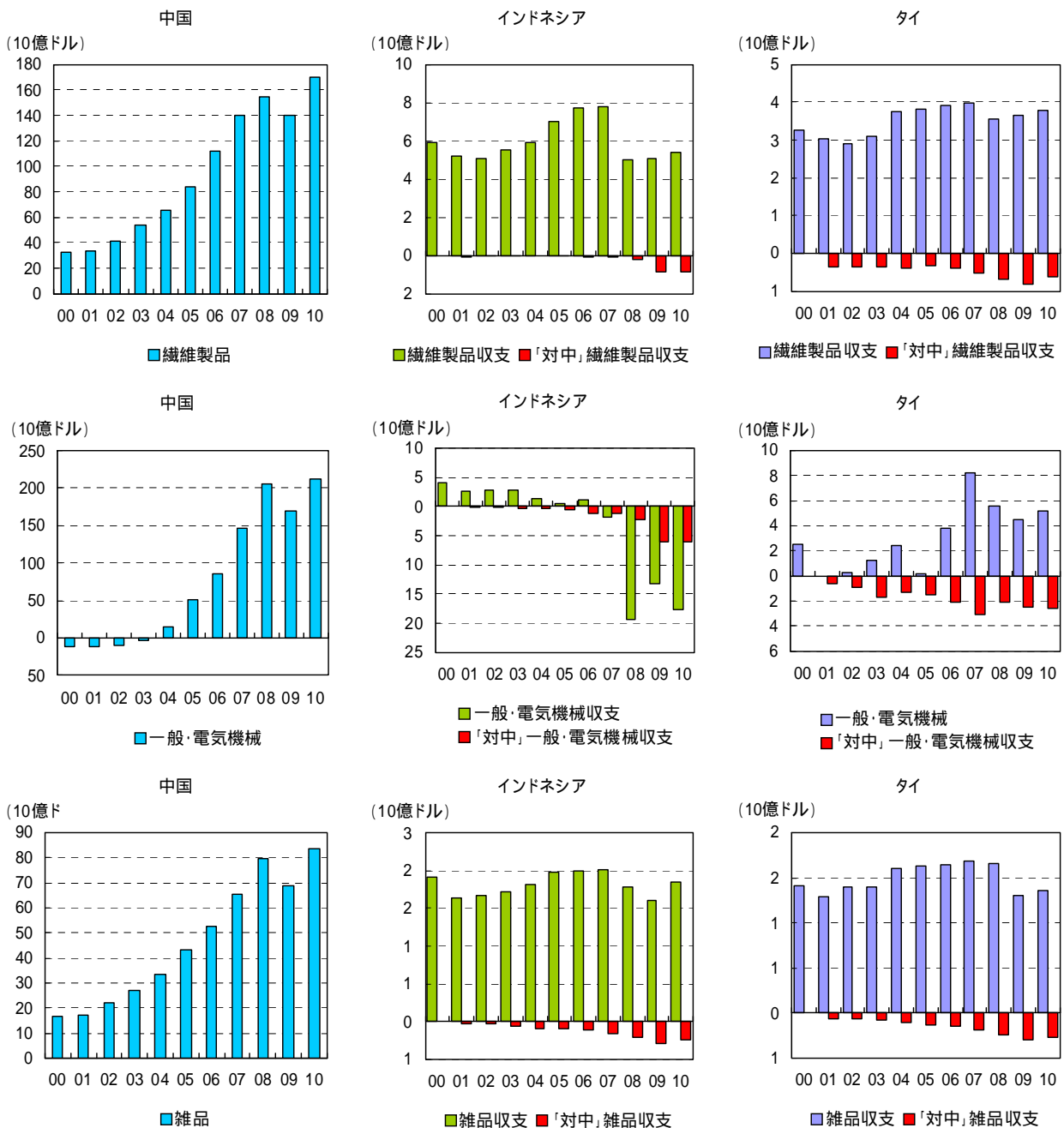
(4) 品目別対中貿易動向にみる競合・依存関係

次に品目別貿易収支の統計をもとに、中国との競合あるいは依存関係について品目単位で考えてみた。ここでは貿易黒字を計上している品目は当該国にとって競争力がある品目であり、逆に赤字を計上して

いる場合は相対的に競争力が低いか、相手国に依存していると仮定。中国が黒字あるいは赤字を計上している主要品目についてインドネシアとタイの対中収支の推移から両国と中国の競合ないし依存関係について考えてみた。

下掲図表11は中国が貿易黒字を拡大させている「繊維製品」、「一般・電気機械」、家具、寝具、玩具などの「雑品」についてみたものである。「繊維製品」、「雑品」についてはインドネシア、タイ両国とも品目収支は黒字を計上しており、競争力を有しているとみられる。しかし、対中収支はいずれも赤字が拡大する傾向にあり、厳しい競合関係にあると考えられる。一方、インドネシアの「一般・電気機械」については品目収支・対中収支ともに赤字に転じており、対外・対中依存度が強まりつつあると考えられる。

図表11. 中国が貿易黒字を拡大させている品目



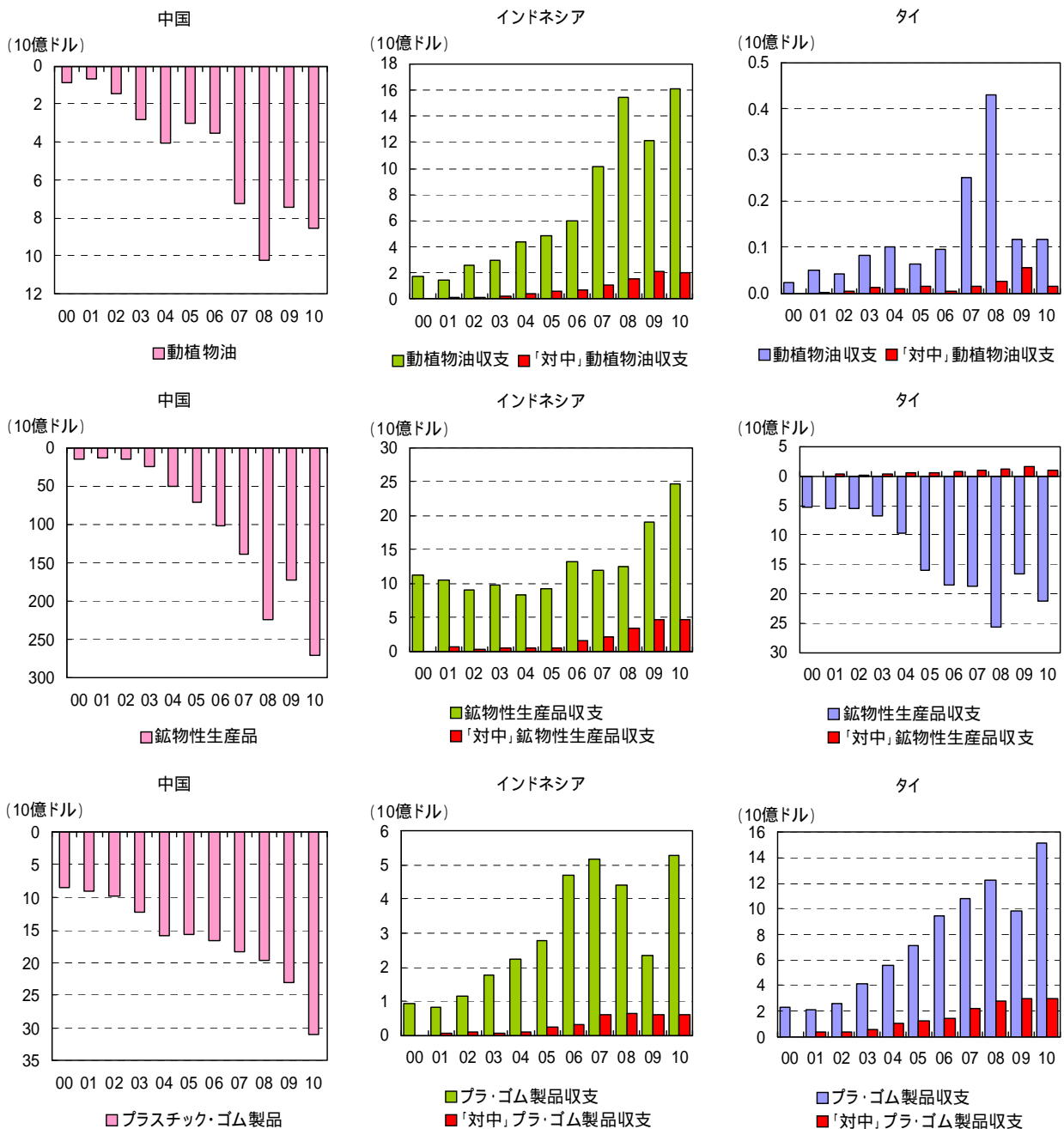
(出所) CEC, World Trade Atlas

(注) インドネシアの対中品目別収支の2010年は1-11月実績の年率換算値ベース。



下掲図表12は中国が貿易赤字を拡大させている、すなわち対外依存度を高めていると考えられる「動植物油」、石油を含む「鉱物性生産品」、「プラスチック・ゴム製品」についてみたものである。「動植物油」「プラスチック・ゴム製品」についてはインドネシア、タイ両国とも高い競争力を活かし、対中貿易黒字を拡大させている。中国側から見れば、これらの品目については両国への依存度が高まっていることがわかる。一方、「鉱物性生産品」については産油国であるインドネシアが対中貿易黒字を拡大させているのは当然と考えられるが、タイも全体としては赤字を計上しながら対中では黒字を計上している。中国の強いエネルギー需要がタイに例外的な収益機会をもたらしているようだ。

図表12. 中国が貿易赤字を拡大させている品目



(出所) CEC, World Trade Atlas (注) インドネシアの対中品目別収支の2010年は1-11月実績の年率換算値ベース。



中国は諸外国との外交関係において「戦略的互惠（win-win）関係」の構築を標榜している。ASEAN 諸国と中国は貿易面で着実に「互惠関係」を深化させているようである。しかし、両者の関係は、競合と依存のバランスを取りつつ中国の活力を取り込みたいASEAN と輸出市場と必要な原材料の供給を期待する中国との緊張感を伴った「互惠的」経済関係といえそうだ。

以上

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。